

日英語の複合形容詞の形成メカニズムと意味解釈について\*

由本陽子

1. はじめに

(1) (a) subordinate (synthetic) (e.g. windmill, bookseller, pickpocket)

(b) attributive (e.g. greenhouse, swordfish, Sunday driver)

(c) coordinate (e.g. blue-green, bitter-sweet, mother-child)

(cf. Scalise and Bisetto 2009, Lieber 2009, a.o.)

(2) 第一投射の条件 (First Order Projection Condition)

二次複合語の内部において、主語以外の項はすべて主要部 (すなわち動詞要素) の姉妹位置で満たされねばならない。 (影山 1993:203)

All non-SUBJ arguments of a lexical category  $X_i$  must be satisfied within the first order projection of  $X_i$ . (Selkirk 1982:37)

(cf. Roeper & Siegel 1978, Lieber 1983, Selkirk 1982)

・ 目的語との複合

(3) a. lion hunting, dish washing, church going

b. 麦踏み、金儲け、あら捜し、魚釣り、医者通い、田舎暮らし

・ 副詞・付加詞との複合

(4) a. rapid walking, indoor running, hammock napping,

b. 早歩き、早起き、馬鹿笑い、夕涼み

・ 2つの必須内項をとる基体動詞の場合

(5) a. **hand** a toy to the baby, **put** boots on the shelf <x, y, z>

b. \*hand a toy, \*hand to the baby, \*put boots, \*put on the shelf

(6) a. \*toy handing to babies, \*boot putting on the table

b. \*baby toy handing, \*table vase putting

cf. the handing of toys to babies, the putting of boots on the table

c. \*車庫車入れ、\*被災地物資送り、\*米国自動車輸出

cf. 車の車庫入れ、米国への自動車輸出

・ 主語との複合

(7) a. \*girl handing (of a toy to the baby), \*child drinking, \*teacher scolding

b. \*girl swimming, \*child crying, \*clerk working

c. \*rain falling, \*population growing, \*teeth decaying

(8) a. \*男舞い (=男が舞うこと)、\*赤ちゃん泣き、\*子供働き、\*犬泳ぎ

---

\* 本稿は科学研究費補助金基盤(B) (17H02334 研究代表者：由本陽子) の援助を受けて行った研究成果の一部である。

b. \*お菓子の母作り、\*円の外国人買い、\*理科の女子嫌い

c. 雨降り、時間切れ、肩こり、地鳴り、草枯れ、心変わり、紙づまり

本発表で明らかにしたい問い

Q1. (2)は両言語の形容詞類を基体とする複合語にも適用されるのか？

先行研究では、V-en (e.g. hand-made, thin-sliced)、V-ing (e.g. eye-catching, good-looking)、V-able (e.g. machine washable, teacher trainable)を主要部とするもの以外は、ほとんど考察対象になっていない。

日本語でこれに対応するものは「手編み (のセーター)、黒焦げ (のパン)」などとなり、行為や出来事を表す名詞や「爪切り、魔法使い」のような物体を表す名詞と同様形態的には名詞である。日本語の形容詞類 (形容詞と形容名詞) を主要部とする生産的な複合はどのような性質のものなのか？

Q2. 形容詞由来派生名詞を主要部とした複合語についても(2)は適用されるのか？

先行研究は管見の限りこの問題に言及さえしていない。

本研究の目的

日英語の形容詞類が関わる複合がすべて(2)のような条件のもとに形成されるのかどうかを明らかにし、もし動詞由来複合語と異なるプロセスによる語形成だと考えられるものがあるとするれば、その違いを説明する。

## 2. 英語の形容詞が関わる複合

### 2.1 名詞との複合による複合形容詞

- ・前置詞句補部を項として要求すると思われる形容詞は一定数存在する。

(9) a. This mouse is immune \*(to smallpox).

b. This phenomenon is specific \*(to this language)

c. X-free, X-mad, X-prone, X-proof, X-rich, X-sick, X-worthy,

?X-aware, ?X-strong, ?X-poor, ?X-devoid

- ・COCA による調査

対象 : conscious, dependent, familiar, immune, relevant, sensitive

(consciousness, dependence, familiarity, immunity, relevance, sensitivity)

対象を絞った理由 : -free, rich, -worthy, -proof, -prone など主要部とする

複合は非常に生産性が高いが、ほとんどの辞典において、接尾辞と同じよ

うにハイフンつきで項目に挙げられているため、複合語を作る要素としてレキシコンに登録されている可能性が高い。<sup>1</sup>

結果:すべてが補部と生産的に複合するとは言えない。(中でも *immune*, *relevant*, *familiar* については、複合形容詞を形成していると認められるものは非常に少ないまたは、皆無で、補部を表す場合は名詞に後置され補部を PP で表している。)

しかし、複合形容詞（を作っているものは補部との結合に限定されている。(cf. 表 1-4)

- 英語形容詞の叙述対象とする項が外項だとすれば(cf. Williams (1980))、複合形容詞形成にも(2)と同じ条件が関わっていると考えられる。ただし、生産的に複合語を形成する特定の形容詞については、心内辞書においても、複合語を形成するものとして記憶されていて、基体の項構造に基づいた複合ではない可能性がある。

## 2.2 形容詞の派生名詞を主要部とする複合名詞

- (10) a. conscious of X / X-conscious / **X-consciousness** (e.g. class-consciousness)  
 b. dependent on X / X-dependent / **X-dependence** (e.g. drug-dependent)  
 c. familiar with X / X-familiar / **X-familiarity** (e.g. word familiarity)  
 d. immune {to/from} X / X-immune / **X-immunity** (e.g. tax immunity)  
 e. relevant to X / X-relevant / **X-relevance** (e.g. job relevance)  
 f. sensitive to X / X-sensitive / **X-sensitivity** (e.g. gender sensitivity)

- COCA による調査結果: 複合形容詞より頻繁に用いられている。複合形容詞は作らない基体形容詞も、名詞になると補部との複合にある程度の生産性が認められる。いっぽうで、補部以外（主語や付加詞）と複合している例がかなりある。(cf. 表 1-4)

- 名詞+名詞の複合は(1b)のタイプである可能性が常に否めず、これらの例があることで、(2)の条件が適用されないことを示す証拠とはならない。

## 2.3 まとめ

前提: 英語形容詞の叙述対象とする項は外項 (cf. Williams (1980))

- ① 英語の語根形容詞を主要部とした複合形容詞形成には、動詞由来複合語にか

---

<sup>1</sup> 『ジーニアス英和大辞典』では-specific も項目に挙げられている。

かるとされている制約が適用される。ただし、実際に使用され生産性が高いのは、限定された形容詞を主要部とする場合に限られている。

- ② 英語の形容詞由来の派生名詞を主要部とした複合名詞形成には、動詞由来複合語にかかるとされている制約のもとに一定の生産性が認められる。

### 3. 日本語の形容詞と形容名詞が関わる複合

#### 3.1 補部との複合

・補部が必須、あるいは、補部がないと意味が違ってくる形容詞と補部との複合は容認されない。

(11) a. 健は {味にうるさい／酒に強い／金に汚い／音に敏感だ}。

b. 健は {\*味うるさい／\*酒強い／\*金汚い／\*音敏感だ}。

cf. 粘り強い、忍耐強い vs. 打たれ強い、叱られ強い

→ (i)形容詞の主語が内項だと仮定すれば、補部をとる場合2つの内項をとることになる。ゆえに第1投射の条件に従って、そのような形容詞の複合は許されないという説明が可能。(cf. (6))

☞ 日本語形容詞の主語が内項である証拠

(12) a. 品薄 (cf. 品切れ)、手薄、望み薄、株安、円安、円高、物価高

b. あのスーパーは品薄の時がある。

c. 円高の間に海外旅行に行きたい。(cf. 3.2)

(13) a. 種切れ、肌荒れ、金詰り、筋違い、肩こり

b. 種が切れている(状態) → 種切れ <x> 非対格動詞の主語

・動詞由来の述語名詞で形容詞的意味として機能するもの、また、形容名詞なら、内項との複合が許される。

(14) 罪作りの言葉、人騒がせな人、気がかりな天気、人たらしな

→ 動詞からの派生名詞は、動詞の内項を受け継ぎ外項を修飾する(叙述する)述語名詞を作れる。内項との複合は FOPC に合致。

(15) a. 近所迷惑な騒音、仕事熱心な人、親不孝な息子、関西特有なあいさつ、女性独特な気配り、身分相応な暮らし、貴族同等 {の／な} 待遇

b. かんさいにどくゆう → [かんさい : どくゆう]

c. みぶんにそうおう → [みぶん : そうおう]

→ (ii) 形容名詞は連結詞を介さなければ述語として機能しないから、「主語は外項」という前提に基づけば、内項との複合は(2)の条件に合致している。

(iii) 形容名詞の複合語の中には、post-syntactic compound

(Shibatani & Kageyama 1988)、あるいは、**S 構造複合語** (影山 1993) と考えられるものがある。<sup>2</sup>

- (16) a. [ロンドン：出張] の折に、[切手：同封] の上、…  
 b. \* [ロンドン：のんびりと旅行] 中に…  
 c. ?\*首相は [ロンドン：滞在] 中に、外相は [パリ：滞在] 中に…  
 d. [中古車<sub>i</sub>：販売] の際にはそれ<sub>i</sub>に 6 か月の保証を付けなければならない (影山 1993:223)
- (17) a. \* [関西：もともと特有] な件  
 b. \* [女性：きわめて独特] な気配り
- (18) a. [メディア業界での経験] 豊富なアレックス・ゲイル氏 (西山 2020)  
 b. [海に近い地方] 特有な傾向
- (19) a. これは [関西：特有]、あれは [関東：特有] な現象だ。  
 b. アレックスは [伯爵：同等]、ジャネットは「伯爵夫人：同等」の待遇をけた。
- (20) a. [離島]<sub>i</sub> 独特な作法も、[そこ]<sub>i</sub> に住む人にとっては日常的な慣習だ。  
 b. [その地方：特有] な傾向、[彼：独特] な描写

### 3.2 主語との複合

・語根形容詞 (動詞由来でないもの) の場合、**主語にあたるものとの結合が生産的**である。

- (21) 奥深い、草深い、執念深い、慈悲深い、情け深い、欲深い、興味深い、印象深い、感慨深い、親しみ深い、罪深い、疑い深い、慎み深い、嫉妬深い、思慮深い、注意深い、なじみ深い、きめ細かい、筋骨たくましい、口うるさい、口堅い、口軽い、口汚い、目ざとい、数少ない、数多い、腹黒い、幅広い、見目麗しい、格式高い、かさ高い、勘定高い、香り高い、名高い、etc.

→ ほとんどの場合形容詞は一項述語で、主語が内項だという前提に基づけば、(2)の条件には違反しない。<sup>3</sup>

<sup>2</sup> この場合は、もう一つ補部があったとしても複合が可となる(cf. (16d))。形容名詞については、そのような例は見つけれられていない。

<sup>3</sup> 「うるさい、汚い」が(11)で複合が容認されなかったにも関わらず「口うるさい、口汚い」が容認されるのは、両者では形容詞の意味が異なり (高い水準を求める vs. やかましい)、後者は 1 項動詞だと考えておく。

- ・ **ただし、結合する名詞から項を受け継いで叙述対象とする必要がある。**  
 非主要部でありながら項を受け継ぐことのできる名詞：
  - 「形質名詞」(e.g. 趣、香り、数、きめ、名) (cf. 由本 2020)
  - 「関係名詞」(e.g. 印象、関係、興味、縁)
  - 「動詞由来名詞」「動名詞」(e.g. なじみ、親しみ、疑い、注意、思慮)
 ☞ 場合によっては、名詞から主語以外の項を受け継ぐこともある。  
 (e.g. 自然科学とは縁遠い学問)

☹ **形容名詞でも主語との複合は生産的**である。

- (22) 頭でっかちな、口達者な、種類豊富な、心身健全な、弁舌さわやかな、言葉巧みな、色鮮やかな、意気盛んな、注意散漫な、意味深長な、神経過敏な、組み換え自由な、携帯可能な、理解困難な
  - 仮説(ii) に従うと、FOPC とは合致しない。  
 音韻的特徴から、(iii)のタイプとは考えられないものもある。
- (23) a. [[週末に持ち出し] : 自由] な器具  
 b. [[夜間の飛行] : 可能] な区域  
 c. [[肉眼による観察] : 困難] な現象 (由本 1990)
- (24) a. これらの器具は [持ち出し : ご自由] です。  
 b. [夜間の飛行] ; 可能な区域と [それ] ; を禁止している区域がある。  
 (由本 1990)

→ 形容詞の場合と同様、主語との複合は、名詞から項を受け継ぐことによって容認されるものであり、3.1 で見たものとは異なるタイプ。

◎ **形容詞・形容名詞の主語との複合は、主要部の項構造を基盤とするのではなく、非主要部名詞の語彙情報によって保証されるものである。**(由本・影山 2009)  
**語彙情報とはクオリア構造や広い意味での項構造**

- ① 構成役割 (部分—全体関係) で「形質名詞」として認定され得るもの (香り高い=香りにおいて程度が高い、目ざとい=目 (視覚) において敏感だ)
- ② 項を要求する「関係名詞」(～への興味、～との縁)
- ③ 基体から項を受け継ぐ動詞由来名詞 (～になじむ、～に親しむ)

● 二重主語構文からの編入による分析 (a.o. 西山 2020) は、このタイプのすべての複合語に同様に適応できるとは考えにくい。

- (25) a. メディア業界での経験豊富なアレックス・ゲイル氏  
 b. 海外自由旅行知識と経験豊富なスタッフ (西山 2020)
- (26) a. \*子供への慈悲深い人、\*前世での罪深い男、\*科学との縁遠い学問  
 \*執念と欲深い人、\*気位と格式高い老舗  
 b. \*会議での弁舌さわやかな人、\*上司への筆まめな人、  
 \*経験と知識豊かな人、\*筆と口まめな人

● Kishimoto and Booij (2014)や Kageyama (2016:252)は、以下のように複合語の名詞のみの省略が不可であることから、このタイプの複合が編入によるものではないと主張している。このテストについても、このタイプのすべてに適用できず、S 構造複合だと思われるものについては、容認性が異なる。<sup>4</sup>

- (27) a. 彼は毛<sub>i</sub>-深いですか? \*はい、 $\varphi_i$  深いです。(Kageyama 2016:252)  
 b. この場所は名<sub>i</sub>-高いのですか? \*はい  $\varphi_i$  高いです。  
 c. 彼は経験<sub>i</sub>-豊かです。 ?彼女も、 $\varphi_i$  豊かです。  
 cf. あの事故は仕方<sub>i</sub>- ないね? \*うん、 $\varphi_i$  ないね。  
 (Kishimoto and Booij 2014)
- (28) a. 彼は経験<sub>i</sub>-豊富ですか? はい、 $\varphi_i$  豊富です。  
 b. 彼は注意<sub>i</sub>-散漫です。 ?彼女も  $\varphi_i$  散漫です。

### 3.3 形容詞の語幹を主要部とする複合名詞

・状態事象を表すもの。内項である主語が複合し、形容詞語幹は転換により名詞化している。

→事象名詞(stage-level)の一種。(2)の条件に従う項構造を基盤とした複合

- (29) a. 品薄 (cf. 品切れ)、株安、円安、円高、先高 (将来値段が高くなる見込み)、物価高、身重、身軽  
 b. できるだけ品薄は避けなければならない。  
 c. 円高の間に海外旅行に行きたい。  
 d. 身重の女性に席を譲ろう。

<sup>4</sup> ただし、多くの場合 N と結合しない単純形の形容詞と交替が可能である (e.g. 彼は口うるさい=彼はうるさい、色鮮やかな新緑=鮮やかな新緑) ためこのテストは必ずしも有効ではない。いっぽうで、この交替ができないもののうち、特に「深い」「高い」は原義から離れ N が表す抽象的意味の程度の大きさを表すものとして機能しているが、これは、平安時代にすでに出現している用法で (cf. 漆谷 2011)、多くの場合、パラフレーズもできない。したがって、特に、これらについては編入によって形成され、それが語彙化されたものとする分析は当たらないと思われる。

・主語と結合し、属性(individual-level)を表す述語名詞となっているもの。さらにそれがメトニミーによって物体を表す名詞になっているもの。

→ 3.2 のタイプの複合形容詞と同じ条件を満たす名詞との結合

(30) 肉厚、胴長、甲高、声高、縁高、面高、欲深、骨太、気長、面長  
メジロ、ホオジロ、オナガ、腹赤 (マス)、腰高 (塗椀の一種)、胴長 (ズボンの一種)

☞ 複合形容詞からの名詞化とは考えにくい理由

① 名詞としてしか容認されない例がある。

② 漆谷(2016)によれば、中世にすでに形容詞語幹を主要部とするこのタイプの複合は存在した。<sup>5</sup>

#### 4. まとめ

##### 【I】語形成の部門と利用する語彙情報とによる類型化

以下の {A, B} { $\alpha$ ,  $\beta$ } 2 種類のファクターの組み合わせ

A. 主要部の項構造を基盤とした語形成 (=FOPC が関わる複合)

英語の形容詞と項の結合による複合形容詞 (light-sensitive, age-relevant)

英語の形容詞由来派生名詞と項の結合による複合名詞

(class-consciousness, data-dependence)

\*日本語の形容詞の形容詞と補部の結合による複合形容詞

日本語の形容詞語幹と項の結合による事象を表す複合名詞 (円高、品薄)

日本語の動詞連用形を主要部とする複合形容名詞 (罪作りな、人騒がせな)

日本語の形容名詞と項の結合による属性を表す複合形容名詞

(近所迷惑、女性特有、貴族同等)

B. 非主要部の語彙情報から項を受け継ぐ語形成 (FOPC が関わらない複合)

日本語の「主語」との結合による複合形容詞・形容名詞

非主要部の語彙意味情報の利用 (幅広い、香り高い、色鮮やか、口達者)

非主要部が受け継ぐ項構造の利用 (なじみ深い、携帯可能、理解困難)

日本語の形容詞語幹と「主語」との結合による属性や物体を表す複合名詞

非主要部のクオリア構造を利用 (肉厚、尾長)

英語は？日本語と類似の「主語」との複合が分詞形容詞には見られる。

(gene-modified food, fat-reduced diet (伊藤 2021) )

<sup>5</sup> 形容動詞としての出現は、足長、足早 (古今著聞集)、奥深 (発心集)、名詞としての出現は、腹白 (古今著聞集) で確認されている。

- α. 語彙部門での語形成 (縁遠い、毛深い、気がかり、口達者)
- β. 統語部門における S 構造を基盤とした編入による語形成  
日本語の形容名詞を主要部とする複合形容名詞  
(関西特有な、経験豊富な、携帯可能、理解困難)

今後の課題

- ・複合語形成の動機の違いと A/B の違いの連関
- ・日英語の形容詞の形態統語的違いの影響

COCA を用いた調査結果の一部 (cf. 由本 (2021))

表 1

	conscious (A)	consciousness (N)
X-	279	641
Complement-	279	450
Modifier/Subject-	0	191

表 2

	dependent (A)	dependence (N)
X-	152	749
Complement-	152	679
Modifier-/Subject-	0	70

表 3

	sensitive (A)	sensitivity (N)
X-	236	878
Complement-	236	765
Modifier-/Subject-	0	113

表 4

	immunity (N)	relevance (N)	familiarity (N)
X-	358	58	96
Complement-	204	58	26 (with) 27 (to)
Modifier-/Subject-	154	0	14

## 参考文献

- 伊藤たかね (2021) 「X-V-en 型の動詞由来複合語再訪: 直接内項を取り込む例をめぐって」ワークショップ (由本陽子・伊藤たかね・杉岡洋子企画) 『形容詞が関わる語形成をめぐって』 オンライン開催 3 月 7 日
- 影山太郎 (1993) 『文法と語形成』 ひつじ書房.
- Kageyama, Taro (2016) Noun-compounding and noun-incorporation. In: Taro Kageyama and Hideki Kishimoto (eds.) *Handbook of Japanese lexicon and word formation*. 237-272. Berlin: De Gruyter.
- Kishimoto, Hideki and Geert Booij (2014) Complex negative adjectives in Japanese: The relation between syntactic and morphological constructions. *Word Structure* 7: 55-87.
- Lieber, Rochelle (2009) A Lexical semantic approach to compounding. In: Lieber, Rochelle and Pavol Štekauer (eds.) *The Oxford handbook of compounding*, 78-104. New York: Oxford University Press,
- Lieber, Rochelle (2016) *English nouns: The ecology of nominalization*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 西山國雄・長野明子 (2020) 『形態論とレキシコン』 開拓社
- Scalise, Sergio and Antonietta Bisetto (2009) The classification of compounds. In: Lieber, Rochelle and Pavol Štekauer (eds.), *The Oxford handbook of compounding*, 34-53. New York: Oxford University Press,
- Selkirk, Elisabeth O. (1982) *The syntax of words*. Cambridge, Mass.: The MIT Press.
- Shibatani, Masayoshi and Taro Kageyama (1988) Word formation in a modular theory of grammar; Postsyntactic compounds in Japanese, *Language* 64: 451-484.
- 漆谷広樹 (2011) 「複合形容詞の研究: 「～深い」と「～強い」について」『愛知大学文学論叢』 第 144 号 206-184.
- 漆谷広樹 (2012) 「古代語・現代語の複合形容詞の比較—名詞+形容詞の複合形容詞の場合—」『愛知大学文学論叢』 第 146 号 236-211.
- 由本陽子 (1990) 「日英対照複合形容詞の構造—「名詞+形容詞・形容動詞」の型について—」『言語文化研究』 第 16 号 353-372. 大阪大学言語文化部.
- 由本陽子 (2009) 「複合形容詞形成に見る語形成のモジュール性」 由本陽子・岸本秀樹 (編) 『語彙の意味と文法』 209-22. くろしお出版.
- 由本陽子(2019) 「形容詞を基体とする複合語についての一考察」『言語文化共同研究プロジェクト 2018 自然言語への理論的アプローチ』89-98. 大阪大学言語文化研究科.
- 由本陽子 (2020) 「日本語の「名詞+動詞連用形/形容詞」型複合語形成における「形質名詞」の役割」 由本陽子・岸本秀樹 (編) 『名詞をめぐる諸問題』 47-67. 開拓社.

由本陽子 (2021) 「総合的複合語形成に関わる制約の再検討」『英文学研究 支部統合号』 Vol. XIII. 175-182.

由本陽子・影山太郎(2009)「名詞を含む複合形容詞」影山太郎(編)『日英対照：形容詞・副詞の意味と構文』 223-257. 大修館書店